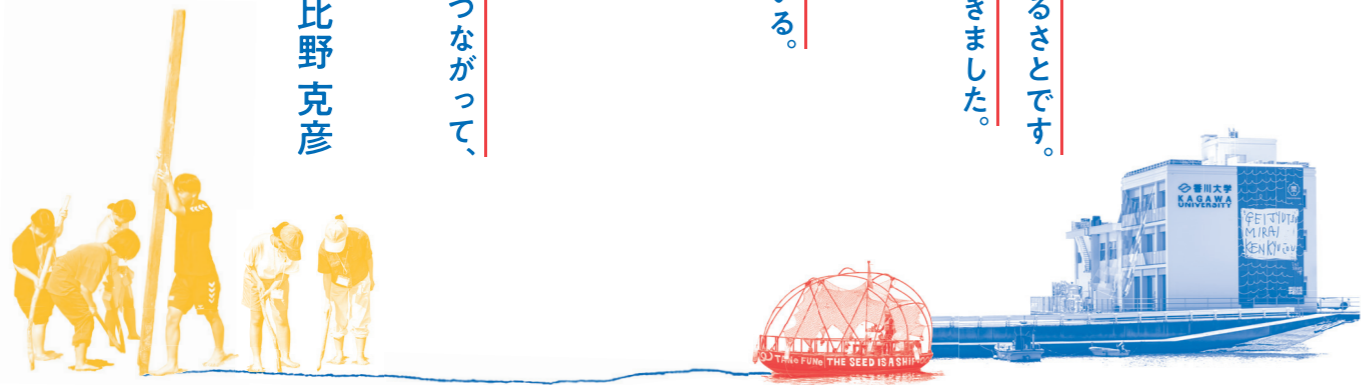


The ocean loves people
Setonaikai Bunka Project

「うみ」は生き物たちの、そして命のふるさとです。
「ひと」も辿っていくと海から生まれてきました。
「ひと」は海→陸へと長い時間をかけて進化してきたらしい。
だから「うみ」と「ひと」は繋がっている。
「ひと」が陸→海への時間を想像することはできるだろうか？
きっとできる。
アートの力を使えばきっとできる。
そして、「ひと」と「うみ」が双方向につながって、次の世界へと進んでいく。

東京藝術大学長 日比野克彦



香川大学 芸術未来研究場せとうち
〒761-0130 高松市庵治町字高砂4511番地15
Tel: 087-832-1508
問い合わせ先: 香川大学イノベーションデザイン研究所
担当: 林、永見

- JR高松駅から: 車で約35分
- JR坂出駅から: 車で約75分 (高速道路利用の場合、約60分 [高松中央IC経由])
- ことでん八栗駅から: 車で約20分
- ことでんバス庵治線 庵治温泉バス停から: 徒歩50分
- 駐車場: 普通車30台、大型バス可



このプロジェクトで香川県と東京藝術大学及び香川大学は次のSDGsの取り組みに貢献し、連携して開催します。

- 4 質の高い教育をみんなに
- 14 海の豊かを守ろう
- 次の取り組みを促進することも目指します。
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

【お問い合わせ】
香川県政策部文化芸術局文化振興課
Tel: 087-832-3785
(FAX: 087-806-0238)

<https://www.tua-kagawa.com/>



2024年度香川県・東京藝術大学連携事業
香川県・東京藝術大学・香川大学 瀬戸内海分校プロジェクト
第3回 海は人を愛する Setonaikai Bunka Project

Kagawa x Tokyo University of the Arts 2024
Research → Workshop → Exhibition
Junior High school x High school x University

令和6年 10月5日(土) - 11月10日(日)
会期中の金土日・祝日開催 [休館日: 11月3・10日(祝日を除く)] 11時 - 16時
*10月5日は15時より一般公開 *土曜・11月3・10日は20時まで延長して開館 入館無料

香川大学 芸術未来研究場せとうち

Exhibiting Artists:
Toshiyuki KUWABARA & Toshihiro NII & Yuka NUMATA & Shintaro MAYAWAKI

「ひと」のロゴ画: 日比野克彦



1. 香川大学 芸術未来研究場せとうち
2. 宮脇チーム/香川大の船による海洋調査
3. 西村雄輔先生によるワークショップ
4. 沼田チーム/大漁旗リサーチ
5. 瀬戸内海歴史民俗資料館でのワークショップ
6. 宮脇チーム/プランクトン観察



2.

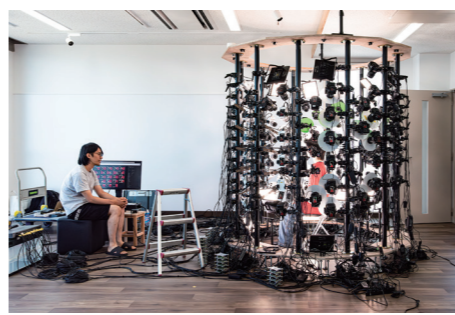
1.



5.



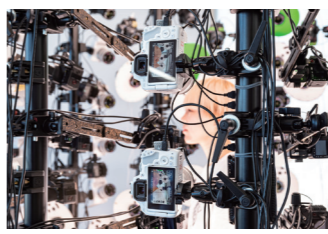
7.



4.



8.



13.



6.



10.



11.



12.

7. 柴原チーム/4Dスキャンの様子
8. 柴原チーム/4Dスキャンの様子
9. 新居チーム/ポートレート制作の様子
10. 沼田チーム/大漁旗デザインの様子
11. 日比野克彦学長による看板
12. 講評会の様子
13. 講評会集合写真

アーティストが中高生・大学生らと共に「ひと⇄うみ」展をつくりあげます

海洋環境を想う「海は人を愛する」をメインテーマに令和4年度から始まった「瀬戸内海分校プロジェクト」は、国内外で活躍しているアーティストと、中学生・高校生らがチームを組み、フィールドワークや作品制作、展覧会の準備・開催を行うことで、作品の企画立案から展覧会開催に至るまでの一連の流れを実践的に学ぶプログラムです。今年度は「ひと⇄うみ」をサブテーマに、瀬戸内海とそこに暮らす人々について考えを深めながら、展覧会開催までのプロセスをアーティストとともに重ねてきました。その集大成となる「ひと⇄うみ」展を、芸術未来研究場せとうちで開催します。



出展アーティスト

柴原 寿行



「ひと⇄うみ」の関係を今日のイメージでとらえ、考えをめぐらすような「場」をこの海辺で作りたいと思っています。いまここでしか実現できない新しいアプローチを目指しています。

事実性や現実感、知覚、心理、情動への影響を及ぼす経験や体験を成立させているものに注目し、「みる・みえる・みられる」周辺領域の潜在的な可能性と問いについて作品制作と研究の両面で活動が続ける。近年では独自の4Dスキャン (Volumetric Capture) スタジオを構築・運用しながら、今日的な肖像の記録と表現について実践的に捉える「shashin1799.org」プロジェクトを主催。第16回 岡本太郎現代芸術賞 特別賞受賞。主な展示会に第16回 岡本太郎現代芸術賞展(岡本太郎美術館)、岐阜おおがきビエンナーレ 2013、ヨコハマトリエンナーレ連携企画「東アジアの夢」(BankART NYK Studio) など。

沼田 侑香



大漁旗は「ひと」と「うみ」の関係性が視覚的に可視化できるアイテムの1つであり、漁師町だからこそ記憶に残る原風景でもあると思います。このモチーフからデザインを踏襲しインスタレーション形式で提示します。

1992年生まれ、千葉県出身。交換留学生に採択され2019-2020年ウィーン美術アカデミーに留学。2022年東京藝術大学大学院修了後、国内外の展示に積極的に参加し、現代アーティストとして活躍している。インターネットが日常的に使用されるデジタルネイティブ世代に生まれた沼田は、デジタル社会へと移行する現代の時代性に焦点を当てながらリサーチをベースに現実と仮想空間について考察している。2024「100年後芸術祭」/市原エリア、2024「クリテリウム100」/水戸芸術館(野村財団奨学金助成採択)、2023「POSITIONS Berlin Art Fair」/Berlin/ドイツ

新居 俊浩



うみを調べるひと、うみへと駆り出すひと、うみの近くで暮らすひと。それぞれにインタビューを行い、彼らが関わりを持つ物や事柄を身にまとったポートレートを制作しました。

1992年徳島県生まれ。2017年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。広告イラスト制作会社を経て2020年からフリーランスイラストレーターとして活動。卒業制作では街頭アンケートを取り、それぞれにまつわる物事を装備としてまとめているポートレートを制作。他者と交流することや、描くことの外側にある面白さ、そして作品と社会とのつながり、在り方を強く意識する契機となる。現在はクライアントワークにおいて広告KV、TV・WebCM、パッケージ、OOH、書籍等、媒体や作を問わずイラスト・ビジュアルを制作。その傍ら、個人制作では人物をメインにニュートラルな表で非現実な世界を描く。

宮脇 慎太郎



瀬戸内に今も残る環境課題、海ゴミの中でも永劫に分解されないマイクロプラスチック。離島に流れ着いたそれらから、海の生命の根源でもあるプランクトンの生態系ピラミッドが立ち上がり、命の輪廻を覚醒させます。

1981年香川県高松市生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業後、日本出版、六本木スタジオなどを経て独立。大学在学時より国内外への旅を繰り返したのち、2009年から高松を拠点に本格的な写真活動開始。辺境・辺縁で生きる人々や、マイノリティーが浮き彫りにする命の流れと聖性を追求。2022年にはリアス式海岸が続く南予沿岸地域を6年間撮影した「UWAKAI」を刊行。同年に初のノンフィクションとしてインドのゴアと屋久島、二つのヒッピーの聖地を旅した「流れゆくもの-屋久島・ゴア-」出版。2002年大阪芸大卒業制作展にてホースマン賞受賞。瀬戸内国際芸術祭公式カメラマン。2020年香川県文化芸術新人賞受賞。